

行政視察報告

▼総務常任委員会

視察日

平成29年2月14～15日

視察先

第1日目 茨城県古河

市第五小学校(午前)、

大和田小学校(午後)

第2日目 茨城県水戸

市国田義務教育学校

視察目的 ICTを授

業に取り入れた先進

事例と小規模小中一

貫校教育について

古河市では、平成24

年にICT機器活用公

開授業研究会を実施

し、平成27年度よりI

CT教育に取り組んで

きた。古河市では小学

校が23校あり、うち一

人一台整備は3校。タ

ブレット端末台数は

1564台。選定はプ

ロボーザルで行い、そ

の選定条件は

①5年間使い続けるこ

と

②サーバーレスのクラウド環境を実現できること

③タブレットに不具合が起きないことなど、条件的に選定した。

④第五小学校では児童数115名、一人一台を使っている。

⑤家庭への持ち帰りは認めていない。

しかし、校外授業や修学旅行には一緒に持ち出せて、見学したこ

との記録や、位置情報など児童の安全確認にも効果があった。授業

では、読む、書く、考

えることを基本にしな

がら、問題を解く過程

や、なぜそう考えたかなどタブレットで、ク

ラスで共有し、授業の

つまずきを少なくして

いる。

次に大和田小学校

は、純農村地帯で古河

なく80名。授業の中では主にグループで発表したり、絵コンテを書いたり、自分が考えたことを具体化し、思考の可視化を行っている。タブレットを使うことでプログラミングでは、グループでの発表や話し合い、他からのアドバイスや、それによる手直しをすることが容易で、児童の思考能力を高め、広げていくことに期待が持てる。

第2日目の水戸市国

田義務教育学校は、小

規模特認小中一貫校として平成28年4月ス

タート。児童生徒数は、

116年生108名、

719年生170名合

計278名。少子化が

著しく、児童生徒数の

減少から廃校の危機にあ

った。そこで小規模

特認校制度を平成26年

から利用し、通学区は

残しながらも、水戸市

く市内全域から就学できる一貫校とした。募集人員は、各学年35名以内として、また就学の条件として4つある

①水戸市内に居住

②本校の教育活動及びPTA活動に賛同、協力する

③通学は、保護者の送迎または公共交通を利用する

④卒業まで在籍する

児童生徒の研究心を

高めるためにタブレット

を使い、お互いの考

えを深め合うことができ

る。

幼稚園も校内に併設

されていて、幼児から

9年生までオール・イン・

ングリュッシュ教育が



古河市第5小学校



古河市大和田小学校

立つ教育とすることができた。

当時でも、ICT活

用、教科担任制、小中

連携等目指すことで大

変参考になった。子供

たちを取り巻く環境も

多様になり、いかに変

化する時代にあった質

の高い教育を提供でき

るかを再認識した視察

でした。

(委員長 千野榮治)